

市民のひろば



親子クイズ ③

ご家庭で話しあつて答えてください。答えは今月号の広報に出ています。

■もんだい
①48年度の南国市体育協会表彰で故〇〇〇〇氏らに功労賞が授けられました。
■しめきり・6月15日(土)
■おくり先・〒783 南国市大浦 南国市役所内広報委員会、親子クイズ係。
■答えのハガキには必ずお歳、職業を書いてください。
広報や行政に対するご意見、マンガ、詩などもどうぞ。
■しょうひん・特賞 2,000円=1人、残念賞(記念品)=10人

特賞に岡崎岩子さん(天行寺)

第32回の正解者発表

■こたえ・③⑥でした。
■特賞・2,000円、岡崎岩子(天行寺)
■残念賞・山崎節子(東崎) 山本岐江(大浦) 岡林隆二(廿枝) 広田恵子(大浦) 弘光孝行(十市) 森薫(浜改田) 藤岡邦男(大浦) 松本三郎(浜改田) 北岡幸雄(物部) 岡本信子(久枝)

新米価決定を前にして

昭和四十八年度米価は、六月七日、全農・全中要求米価決定発表。六十、当り一万三千百十円。

七月三日：米価要求・基本農政確立全国代表者大会(九段会館)前記米価確認。今後の運動方針決定。

八月一日：米審への諮問米価六十、当り九千七百六十七円(四十七年より九・一割引き上げ)

八月三日：米審答申

一、適正限度に引き上げることとは

さしつかえない。…金委員会意見

二、引き上げの程度について。○政府試算以上にすべきである。…生産者委員

○政府試算が限度である。…中立委員

○政府試算は大幅すぎるから、極力小幅にすべきである。…消費者委員

八月八日：政府案決定。六十、当り一万四千一百円(四十七年より十六・一割引き上げ)

昭和四十九年度米価は、

四十八年より早く、田植前決定という要求が強く出されている。要求米価も決定米価も、昨年より早くきまりそうである。生産農民から要求米価が出され、中央に集まり、全国統一米価がきまるといふのが本来の姿だと思われ、従来米のいき方は逆で、これを地方に流し、各都道府県、市町村でこれが支持大会を開くというありさまである。米生産農家の実情が、十分に米価に反映されていない理由がこんなところにあるのではないか。以下米価決定の重要な柱となる二、三の点について意見を述べてみよう。

一、米生産費の中で重要な要素は、その中で五割五分一六割を占める生産農家の家族労働報酬である。政府は生産農家の所得を補償するように米価を決めるといながら、

あなたの便り

■過日、市役所に用事ができて行きました。広い明るい役所の中に「申請書に書いて、かこに入れて順番をお待ち下さい」と書いてありました。私はその通りに書いてかこに入れて順番を待っていました。すると、ある男の人が後から来て、申請書のことわりもなく無理に下に入れていきました。誰も早くしてもらいたくない事ですが、どうもよくが安心して順番を待つことができないようになりまして。ちょっとしたことですが、新しい明るい役所の中で残念で、また、お

たがいに気をつけたいものです。佐竹花美(田村)

■広報がとも充実してきますのではじめてから終りまで、いっぺんに読んでしまいました。今まで須崎高知とありましたので、特に感じました。市民カレンダー、とてもうれしい。そのうち、ぜひ活用したいと思います。

西岡千恵・五十四歳(田村)

■このあいだのこと思い出がけなく、企画財政課より記念のボールペンをお送り下さいまして、ありがとうございました。さっそく、大よろこびして親子で使わせていただいております。大切にして長く使わせていただきたいと思います。どうもありがとうございました。岩崎美代子(福吉)

実質収入はその通りになっていないのが現状である。

二、地代についても、農林省に全国から集った報告では、八千三百九十五円になっているのを、決定米価のときは、いつのまにか五千四百一十四円と下げている。

三、その他、物財費、雇用労働費についても物価の上昇分を十分とり入れていない。

四、米価に重要な関係がありながら、あまり論議されていない「十アール当り平均収量」について。政府がきめた「販売農家十アール当り平均収量四八六」は、実

原稿募集

▼市民の声―行政に対する建設的な意見(八百字以内)▼
し―女性のほのぼのとした随想(六百字以内)しめきり―毎月十日

収量よりも四五、ぐら多い。十アール当り四八六、で全国の米の収量を計算すると一、二九二万、となり、同じ農林省の調査実収量一、一六九万、よりも、一二〇万、余り多くなるので、前記四八六は多すぎることになる。これは、

販売農家につき調査するとき、収量の少ない農家(約半分)を除き、収量の多い家庭のみにつき調査した結果であることは明白である。収量を多くしたため、米価は割安になり安くなりました。(四十八年度は六〇、一万一千四百五十六円となるべきであった)その結果、不利益を受けたのは米生産農家である。こういうことを真剣に考えている農家が案外少ないのは残念である。

四十九年度米価決定を前にして農民一人一人が考えて行きたい問題である。高島田邦政(物部)

思い出の一冊

九月も半ばの祇王寺の朝は多くの曇絵を思わせた。掃き清められた玄関の軒下には一本のすすきと野菊が投げ込まれたあか桶があった。心に描く曇絵の庵主さまにはおめにかかれなかつた今、惜し

つくし



今夜は満月だろうか
お月さまがまんまるくて美しい、
昨夜は雪が積っていて月の光りが四辺一面の雪の景色を照して美しいとも
淡いともこの世のものとは思えぬ程静かな蒼白い景色であった。

(祇王寺日記) 昭和二十七年三月十二日水曜日(日記から)

初夏を迎えようとする奥嵯峨野の美しい自然に心を奪れながら、こんな一日から始まる「祇王寺日記」をまた開いている。

庵主さま智照尼の魅力にひか

れてか、祇王、祇女、仏御前らの愛憎を越えた世界に興味を持って、源氏物語や平家物語に語り描かれていた嵯峨野の美しさの中に人の生美を求めてか、新秋の嵯峨野路で旅の荷物としてしまった思い出の一冊である。

朱陽子 (園分)



若い日が母にもあつた耳かくし
コマーシャル悪路にいとむ高級車
級方親の苦勞も知つて
見せまいと思えば涙腺にぬけ
農政の指針がゆるる米作)

吉本其梅(久礼田)

短歌

哀悼歌 五首

教へ子の計聞きし夜をわむり得ず
優秀児の童顔ありありと浮ぶ
夢なれば覚めよとはかり思えども
君は逝きけり我を残して
古里に錦かざれとすすめしに
遂に帰らず君は逝きけり
母校なる百年式に君待てり
祝辞の中に君を語りぬ
みまかりし君を思はずははての
遠きが悲し行くべくもなき

小笠原 凡翁(三島)